

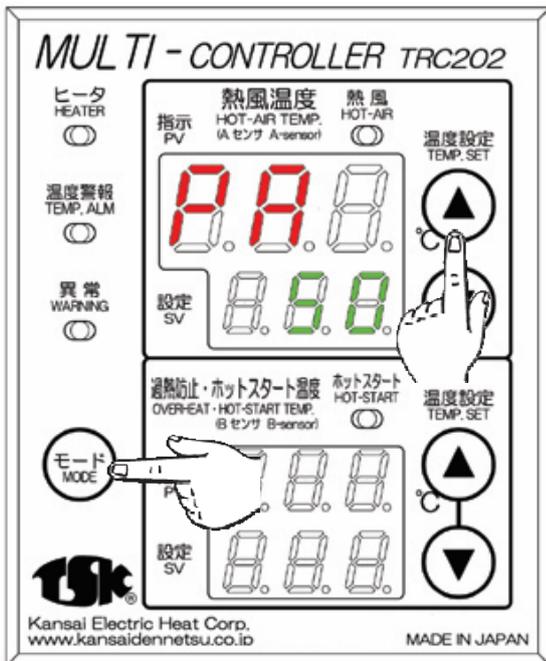
マルチコントローラ TRC202の便利な機能

1 ロック解除

便利な機能をご使用になるためには、各パラメータを変更する必要があります。各パラメータの変更前には、まず、パラメータのロックを解除してください。

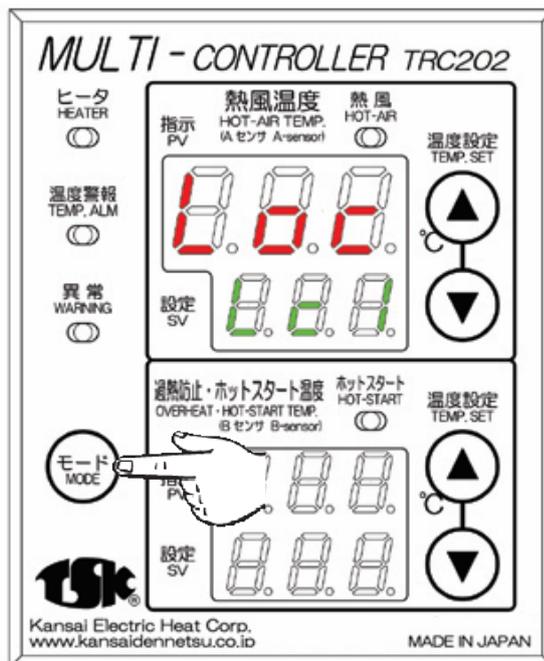
- ①モードスイッチを押しながら、熱風温度のアップキーを約2秒押し続けてください。

指示PV部に『PA』、設定SV部に『50』が表示します。



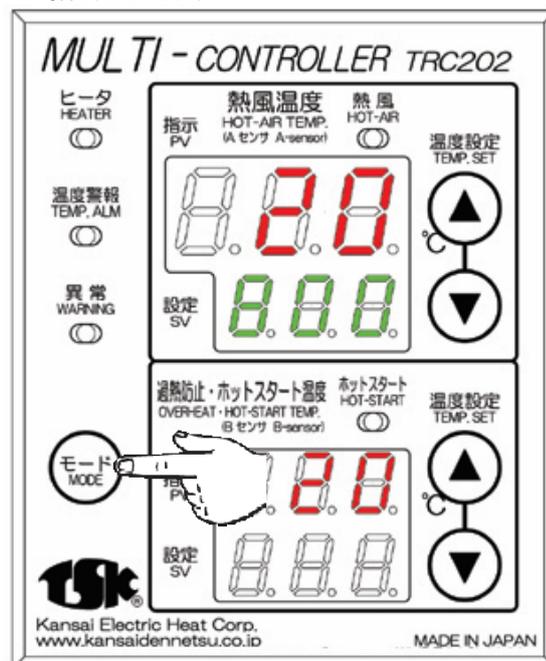
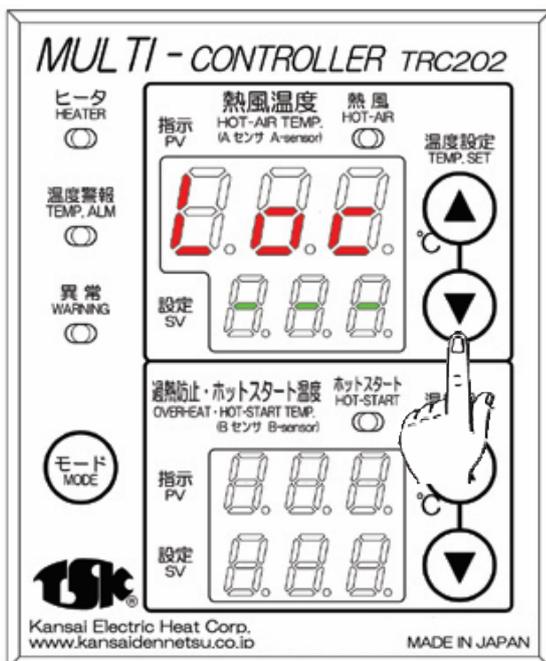
- ②モードスイッチを5回押してください。

指示PV部に『LOC』、設定SV部に『LC1』が表示します。



- ③ダウンキーで設定SV部を『---』へ変更してください。

- ④変更後、モードスイッチを1回押して通常運転状態の表示へ戻してください、これで、ロック解除完了です。



※出荷時のロックモードはLC1です。『---』でロック解除、『LC2』で温度設定、及びその他の設定のみロックとなります。温度設定を固定し、誤設定を防止したい場合には『LC2』へ変更し、ご使用いただく方法もあります。

ロック解除後の再ロックは、上記と同操作にて指示PV部の『---』表示を『LC1』へ変更してください。

2 温度警報モード変更

温度警報モードは、出荷時、待機付上下限偏差警報モードとなっています。ご使用方法に応じてこの警報モードを変更できます。

変更可能警報モード

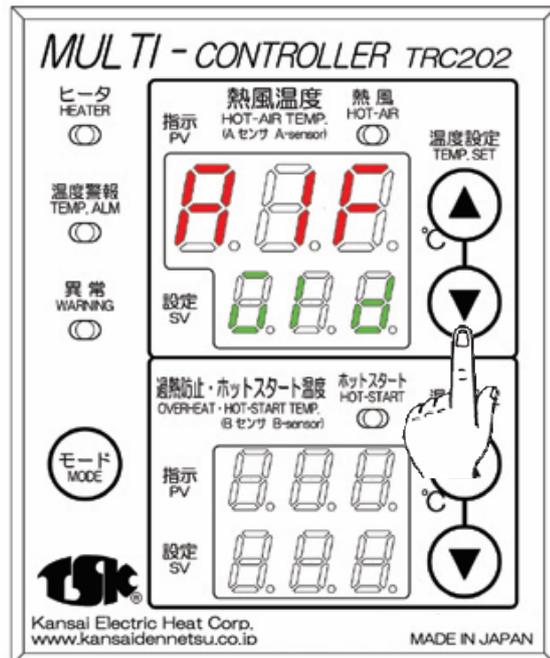
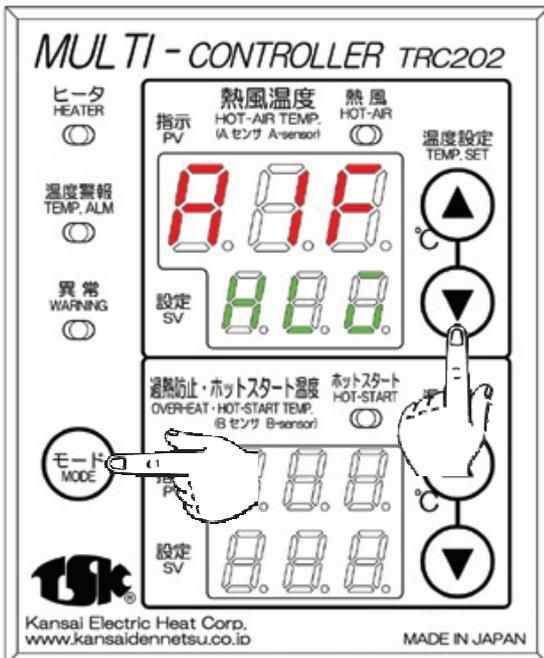
設定値	警報モード	警報動作 : 吐出口温度設定150、温度警報設定50の場合 ※下限偏差警報と待機付下限偏差警報のみ-50設定の場合  印斜線区域内で警報出力がONとなります。					
---	警報動作無し 『---』	警報動作無し					
H	上限偏差警報 『H』	50	100	150	200	250	300
L	下限偏差警報 『L』	50	100	150	200	250	300
HL	上下限偏差警報 『HL』	50	100	150	200	250	300
wid	上下限偏差範囲警報 『WID』	50	100	150	200	250	300
A4	上限絶対値警報 『AS』	50	100	150	200	250	300
-A4	下限絶対値警報 『RAS』	50	100	150	200	250	300
H0	待機付上限偏差警報 『HW』	50	100	150	200	250	300
L0	待機付下限偏差警報 『LW』	50	100	150	200	250	300
HL0	待機付上下限偏差警報 『HLW』	50	100	150	200	250	300

※付機付には熱風運転開始時、指示値(測定値)が警報範囲内のつくも直ちに警報ONにはならず、一度警報範囲外に一旦、再度警報範囲内に入り、再び警報範囲内に入った場合に発生する警報です。下限偏差警報と待機付下限偏差警報のみ、設定値はマイナスとしてください。

- ①ロック解除後、モードスイッチを押しながら、熱風温度のダウンキーを押し続けてください。
指示PV部に『A1F』、設定SV部に『HLW』が表示します。

- ②アップダウンキーにて任意の警報モードに変更してください。

設定後はモードスイッチを7回押し、通常運転状態の表示に戻してください。



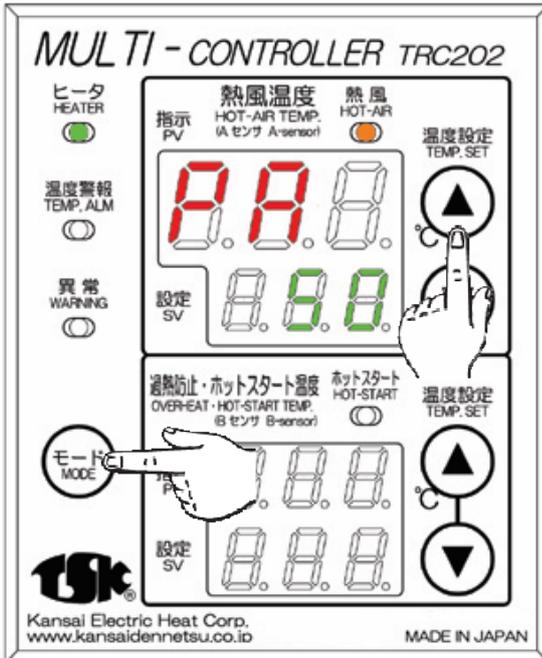
※温度警報変更後は、再度ロックをかけて運転を開始してください。

3-1 オートチューニング（熱風温度）

通常の熱風運転時、設定温度に対して指示温度がばらつく場合、オートチューニングを実施することにより、指示温度が安定する場合があります。

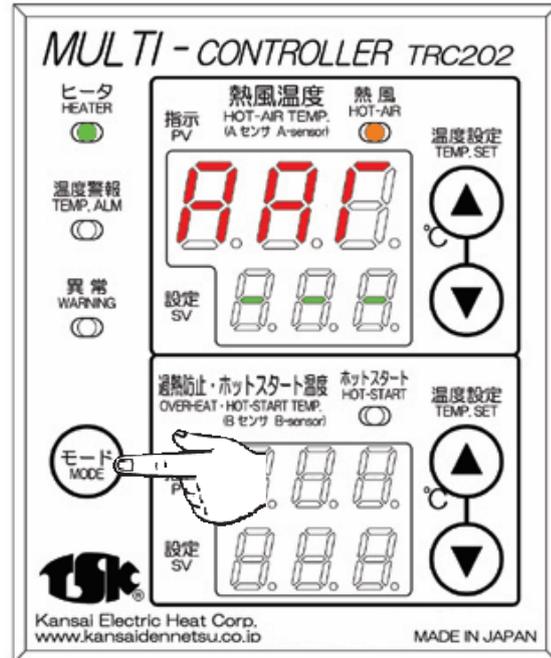
- ①ロック解除後、通常の熱風運転状態にてモードスイッチを押しながら、熱風温度のアップキーを約2秒押し続けてください。

指示PV部に『PA』、設定SV部に『50』が表示します。

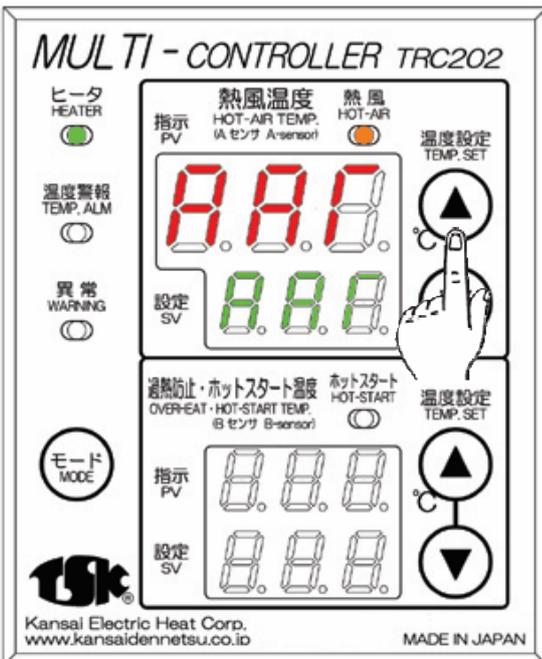


- ②モードスイッチを4回押してください。

指示PV部に『AAT』、設定SV部に『---』が表示します。

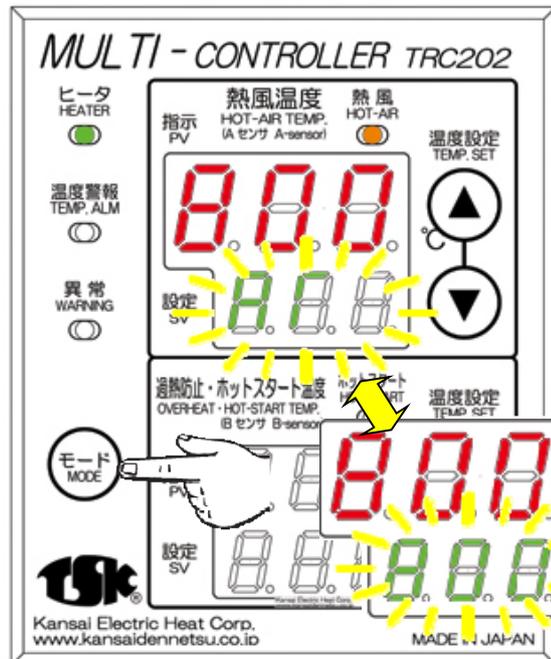


- ③熱風温度のアップキーにて『---』を『AAT』に変更してください。



- ④設定後、モードスイッチを2回押して通常運転状態の表示に戻してください。

設定SV部に『AT』と設定温度が交互に点滅します。



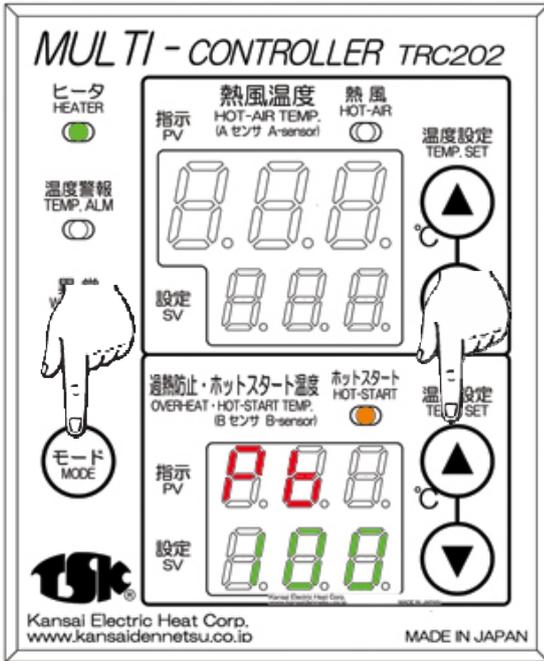
設定SV部に『AT』と設定温度が交互に点滅しながら昇温を開始します。オートチューニングが終了後、点滅が終わり通常熱風運転モードとなります。

※オートチューニングを実施しても、指示温度がばらつく場合はご連絡ください。また、オートチューニング終了後は、再度ロックをかけて運転してください。

3-2 オートチューニング（ホットスタート運転温度）

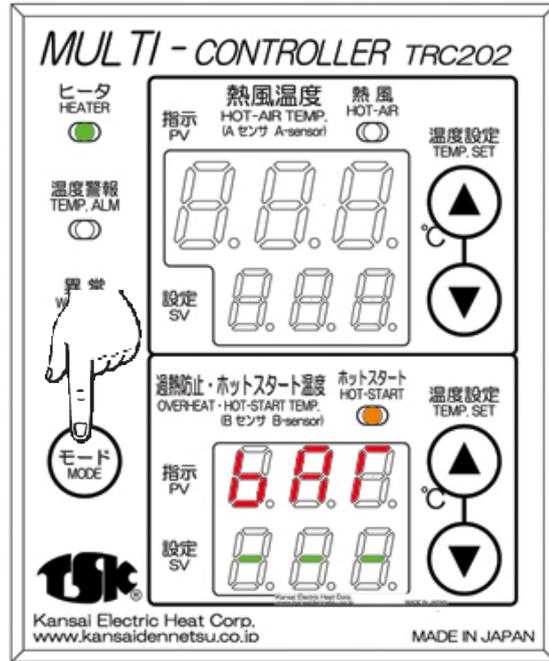
ホットスタート運転時、設定温度に対して指示温度がばらつく場合、オートチューニングを実施することにより、指示温度が安定する場合があります。

- ①ロック解除後、ホットスタート運転状態にてモードスイッチを押しながら、過熱防止・ホットスタート温度のアップキーを約2秒押し続けてください。指示PV部に『Pb』、設定SV部に『100』が表示します。

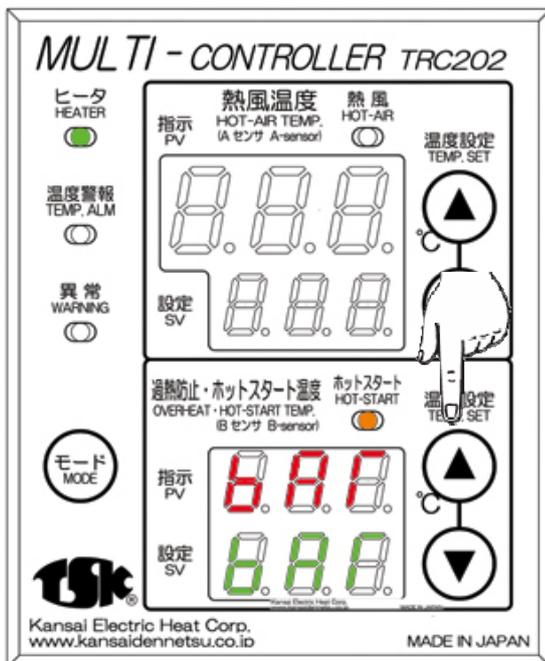


- ②モードスイッチを4回押してください。

指示PV部に『bAT』、設定SV部に『---』が表示します。

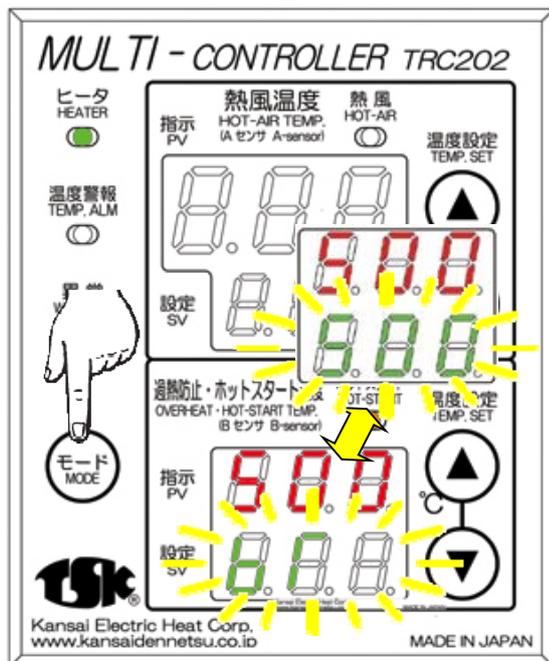


- ③過熱防止温度・ホットスタート温度のアップキーにて『---』を『bAT』に変更してください。



- ④設定後、モードスイッチを2回押してホットスタート

設定SV部に『bT』と設定温度が交互に点滅します。



設定SV部に『bT』と設定温度が交互に点滅しながら昇温を開始します。オートチューニングが終了後、点滅が終わりホットスタート熱風

運転モードとなります。

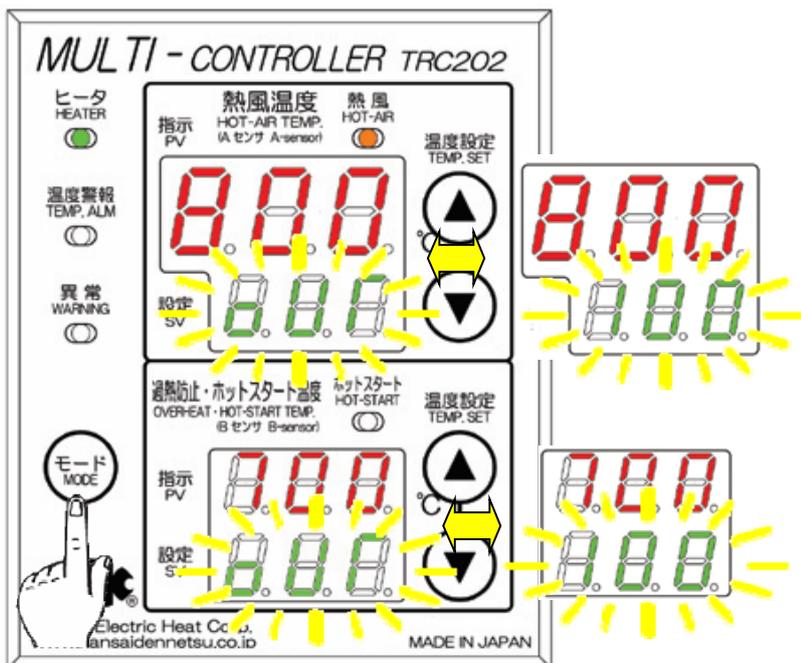
※オートチューニングを実施しても、指示温度がばらつく場合はご連絡ください。また、オートチューニング終了後は、再度ロックをかけて運転してください。

4 ヒータ出力表示

熱風運転中、またはホットスタート運転中に現在のヒータ出力を表示確認することができます。使用熱量のデータ等にご利用ください(出力表示の低いほうで現在の制御がおこなわれています)。

- ①熱風運転中、またはホットスタート運転中にモードスイッチを5秒間押し続けてください(途中でA1表示有り)。

熱風温度と過熱防止・ホットスタート温度の各設定SV部に『OUT』、設定部に現在のヒータ出力(%)が交互に点滅表示します。



※ロック解除の必要はありません。

※モードキーを1回押すと通常運転状態の表示に戻ります。

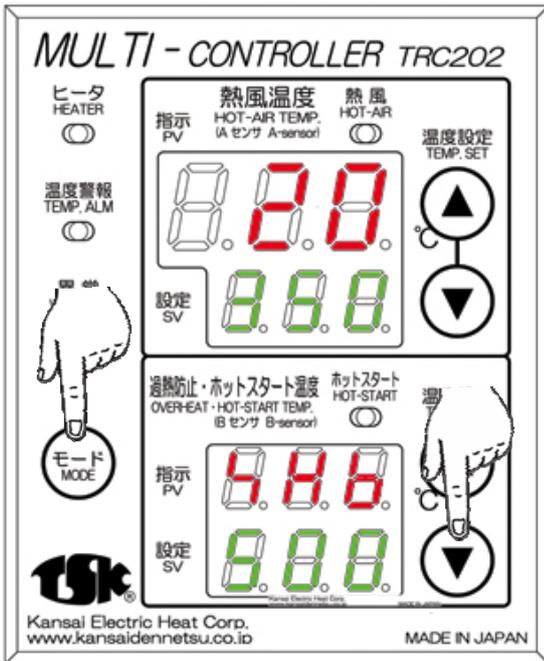
5 風量低下検知機能無効時間の変更

過熱防止温度(Bセンサ温度)が吐出口熱風温度(Aセンサ温度)より80℃以上高い場合に風量低下と検知して過熱防止制御が作動します。ただし、この風量低下検知から過熱防止制御作動までの無効時間を10秒間延けているため、10秒以内に温度差が解消された場合には、過熱防止制御は作動しません。

よって、ホットスタート運転時にホットスタート設定温度より、吐出口熱風設定温度が100℃以上低い場合に、熱風運転切り替え後、過熱防止制御が作動し、いったん吐出口熱風温度が急激に低下する場合があります。この場合は、過熱防止制御作動までの無効時間を長くすること(40秒以上)で過熱防止制御の作動開始を遅らせることができます。

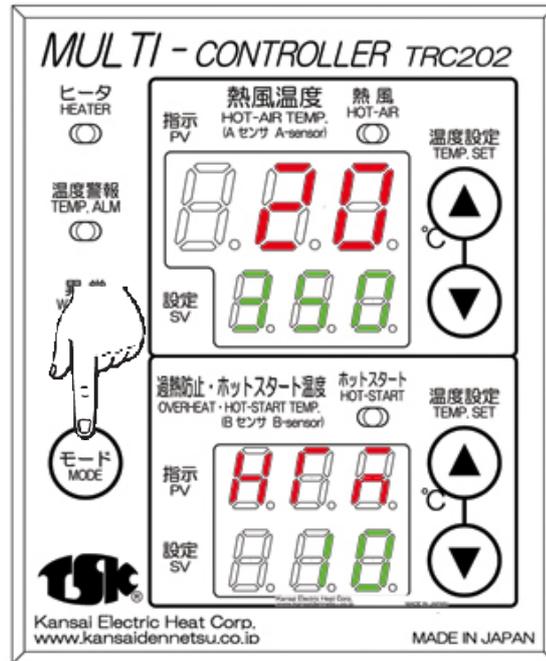
- ①ロック解除後、モードスイッチを押しながら、過熱防止・ホットスタート温度のダウンキーを約2秒押し続けてください。

指示PV部に『SHB』、設定SV部に『500』が表示します。

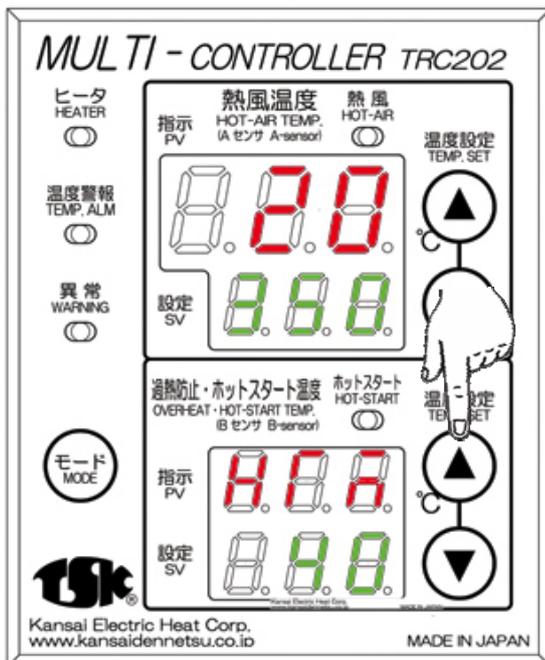


- ②モードスイッチを4回押してください。

指示PV部に『HTM』、設定SV部に『10』が表示します。



- ③過熱防止・ホットスタート温度のアップキーにて『10』を『40』に変更してください。



- ④設定後、モードスイッチを2回押して通常運転状態の表示に戻し、再度、ロックをかけてください。